

お問合せ先  
OBARA GROUP株式会社  
〒242-0007 神奈川県大和市中央林間3-2-10  
TEL. 046-271-2122

適切に管理された森林からの原料を含むFSC®認証紙と環境に配慮した植物油インキを使用  
しています。



[www.obara-g.com](http://www.obara-g.com)

# OBARA-G REPORT

## 第64期 報告書

2021年10月1日………2022年9月30日

証券コード 6877

## 株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。OBARA GROUPの2022年9月期における事業の概況等をご報告致します。

当期における世界経済は、新型コロナウイルス感染症の流行により多方面の経済活動が抑制されましたが、総体的には緩やかな回復基調となりました。

我が国経済につきましては、個人消費に足踏みが見られたものの、生産活動や設備投資に持ち直しの兆しが見られるなど、景気に回復の動きが見られました。

そのような外部環境の下、溶接機器関連事業が、自動車メーカーの前向きな設備投資動向への対応に努め、平面研磨装置関連事業が、堅調な生産活動や設備投資が続くエレクトロニクス関連素材への拡販活動を図ったことなどにより、当社の業績は前期を上回る結果となりました。

なお、当社は株主の皆様に対する利益還元を経営上の重要政策として認識しており、当期に300,000株(自己株式を除く発行済株式総数の1.87%)の自己株式を取得するとともに、当期の配当金につきましては、2022年10月31日に公表の通り、業績が順調に推移したことなどから、1株当たり期末配当金を当初予想より20円増配の90円とし、年間配当金を130円とする案を2022年12月20日開催の定時株主総会に付議し、決議致しました。



次期も不透明な経済環境が予想されますが、当社と致しましては、引き続き成長市場への経営資源の投入を積極的に推進し、顧客ニーズを満たす製品及びサービスの提供を行うことにより、業績の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、OBARA GROUPへの倍旧のご支援を心よりお願い申し上げます。

2022年12月

取締役社長 小原 康嗣

目次	株主の皆様へ ▶01	セグメント別事業概況 ▶05	連結財務データ ▶11	株式情報 ▶15	インフォメーション ▶17
	営業の概況 ▶03	主要経営指標の推移 ▶09	会社情報 ▶14	株主メモ ▶16	



連結業績サマリー

(百万円)

	実績			次期(第65期)の見通し	
	前期(第63期)	当期(第64期)	前期比	期初計画	当期比
売上高	45,475	50,282	10.6%	53,500	6.4%
営業利益	7,321	8,497	16.1%	8,950	5.3%
経常利益	8,037	9,657	20.2%	9,600	△0.6%
親会社株主に 帰属する当期純利益	5,993	6,197	3.4%	6,400	3.3%
1株当たり配当金	110円(年間)	130円(年間)	—	130円(年間)	—

※次期(第65期)の見通しの想定為替レートは、1米ドル=146円を前提としております。

03

当期の連結業績について

当社グループと深く関わる自動車業界につきましては、世界各地域で電動化対応を含め設備投資計画が積極化しました。一方、同じく当社グループと深く関わるエレクトロニクス業界では、半導体メモリーの市況軟化が見られる中、半導体デバイス向け設備投資計画に調整的な動きも見られました。当社グループは、このような経営環境において各市場動向に応じた拡販に努め、ローカルニーズに対応した製品投入を進めたことなどにより、当期の業績としましては、前期を上回る結果となりました。

次期の見通しについて

当社グループと深く関わる自動車業界では、市場環境の急速な変化に対し新型車投入が継続されていますが、通商問題などへの懸念から、車体組立設備において、堅調ながらも慎重な投資動向が予想されます。また、同じく当社グループと深く関わるエレクトロニクス業界では、デジタル化の流れが世界的に進行する中、エレクトロニクス関連素材において、堅調な設備投資が予想されます。

そのような環境下、当社グループとしましては、業績の向上に鋭意注力すべく、成長市場での販売促進を図るとともに、積極的な設備投資と研究開発を行ってまいります。

なお、当連結業績予想は、1米ドル=146円の為替レートを前提としています。

04

## セグメント別事業概況

溶接機器  
関連事業

事業紹介

溶接機器関連事業とは

自動車業界を主要マーケットとする高効率な抵抗溶接機器を製造・販売しています。

自動車が出来るまで

● 溶接機器関連事業と関わる自動車の製造プロセス

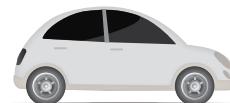
車体溶接

塗装

ぎ装

完成

出荷



OBARA GROUP が提供する溶接機器

自動車ボディは薄板鋼板で構成されるため、抵抗溶接という接合法が採用されています。

抵抗溶接は、接合ポイントに適切な加圧力と溶接電流を与える必要があります。自動車ボディの組立てには、各自動車モデル固有の立体形状に合わせ、個々の接合ポイントにカスタマイズされた溶接機器が設計・製造されます。

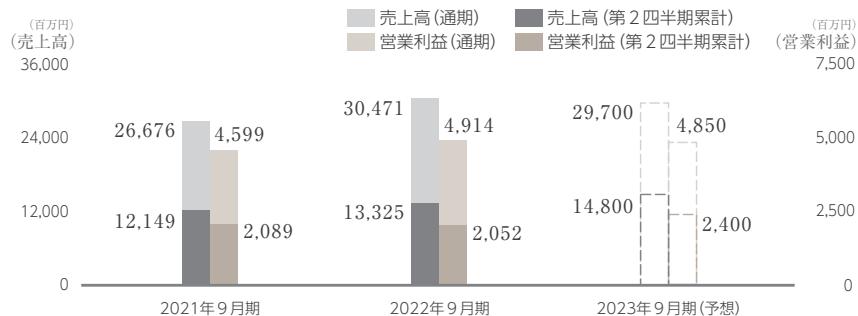
私たちは、国内外の自動車メーカーが行う設備増強やモデルチェンジに伴う設備更新に対し、半世紀に亘って培った経験と最先端の設計・生産技術により、最適な抵抗溶接設備を提案します。日々の生産活動に不可欠な消耗品と合わせ、自動車業界のパフォーマンス要望に応えます。

05

## 溶接機器関連事業



溶接ガン



売上高構成比

30,471 百万円……2022年9月期 売上高

平面研削装置関連事業

溶接機器  
関連事業

60.6%

溶接機器関連事業につきましては、取引先である自動車業界において、アジア地域で堅調な生産活動が見られ、車体組立分野の設備投資についても総じて堅調な推移となりました。

このような環境の下、原材料や輸送に係るコスト上昇があったものの、当事業として設備品及び消耗品の拡販を図ったことなどにより、業績は前期を上回りました。

この結果、当事業の売上高は304億71百万円(前期比14.2%増)、同営業利益は49億14百万円(前期比6.9%増)となりました。

06

## セグメント別事業概況

平面研磨装置  
関連事業

事業紹介

平面研磨装置関連事業とは

エレクトロニクス業界を主要マーケットとする精密研磨装置を製造・販売しています。

エレクトロニクス製品が出来るまで

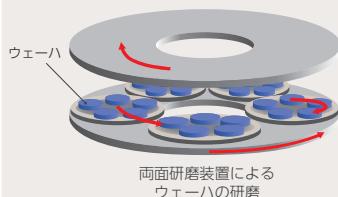
●平面研磨装置関連事業と関わるエレクトロニクス製品の製造プロセス

ウェーハ製造工程  
インゴット引き上げ、切断、  
ウェーハ研磨

半導体デバイス前工程  
成膜、リソグラフィ、  
エッチング等

半導体デバイス後工程  
ダイシング、ボンディング、  
モールドイング等

エレクトロニクス製品組込  
完成した半導体デバイス(チップ)の  
エレクトロニクス製品への搭載



### OBARA GROUP が提供する平面研磨装置

精密加工により製造される先端エレクトロニクス製品は、材料段階で高い面精度を基準平面として要求します。ロジックチップ・メモリーなどの半導体デバイスに用いられるシリコンウェーハ、通信・光デバイス基板、ハードディスク基板など、多様なエレクトロニクス素材の面精度の形成に、ダメージのない微細加工が可能な、遊離砥粒研磨装置が活躍しています。

現代社会を支える各種エレクトロニクス素材の期待水準に、私たちは、ナノオーダー対応の遊離砥粒研磨装置を中心とした精密装置ラインナップで応えます。また、信頼性の高い量産プロセスの確立に必要な、スラリー・研磨パッドなどの消耗副資材も開発・販売しています。

## 平面研磨装置関連事業



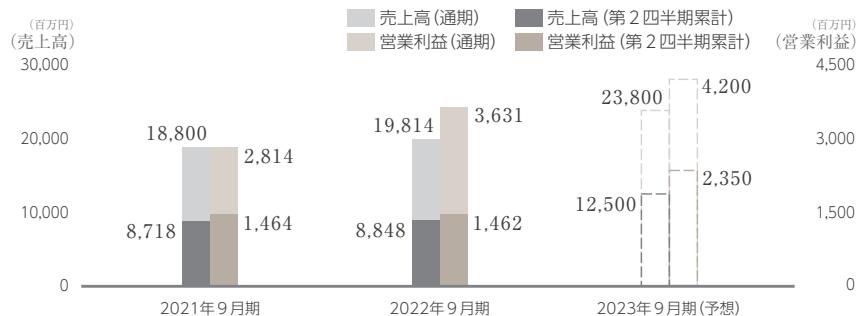
両面研磨装置

売上高構成比

19,814百万円……2022年9月期 売上高

溶接機器  
関連事業

平面研磨装置関連事業 …… 39.4%



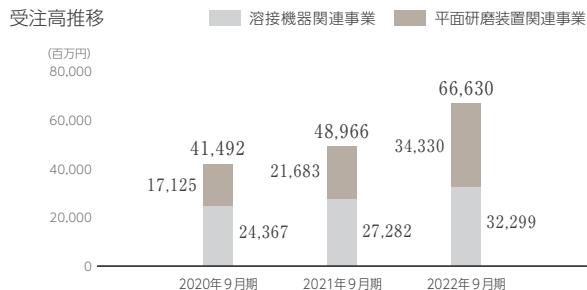
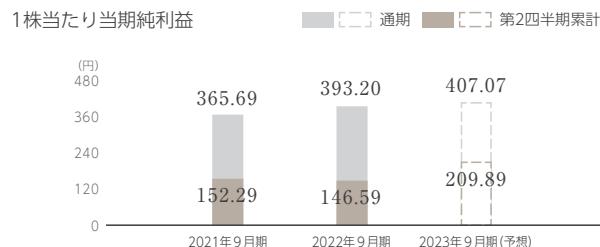
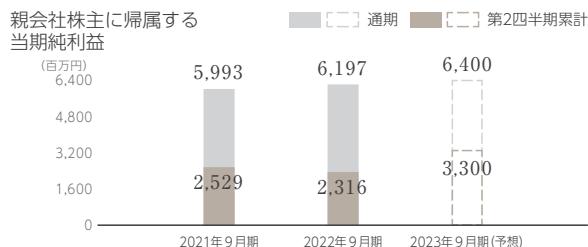
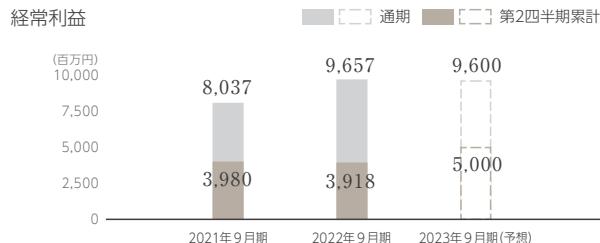
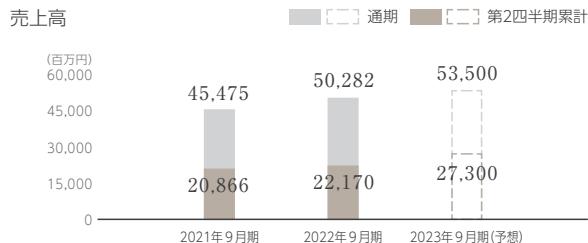
平面研磨装置関連事業につきましては、高度半導体デバイスにおける用途の多様化などを背景とし、取引先であるエレクトロニクス関連素材において、堅調な生産活動や設備投資が続きました。

このような環境の下、当事業として顧客要求に適合した製品の販売促進に努めたことなどにより、業績は前期を上回りました。

この結果、当事業の売上高は198億14百万円(前期比5.4%増)、同営業利益は36億31百万円(前期比29.0%増)となりました。

# 主要経営指標の推移

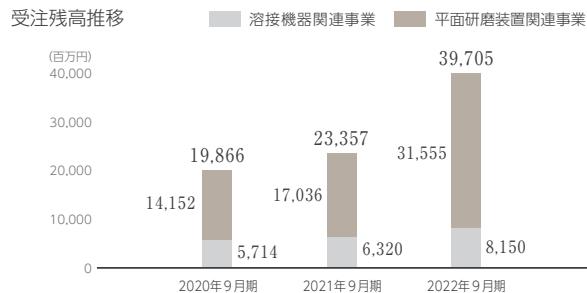
詳細情報は当社IRサイトをご覧ください。 <http://www.obara-g.com/jp/ir/library/index.html>



### 地域別売上高構成比



- 日本 ..... 38.1%
- 米州 ..... 8.3%
- アジア・パシフィック ..... 48.4%
- その他 ..... 5.2%

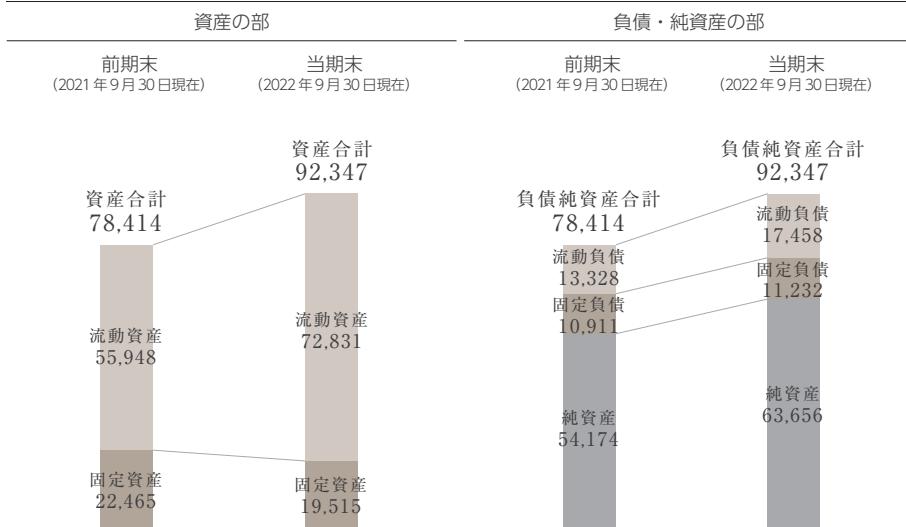


(注) 売上高については、外部顧客に対する売上高を記載しております。



資産・負債・純資産の状況

(単位：百万円)



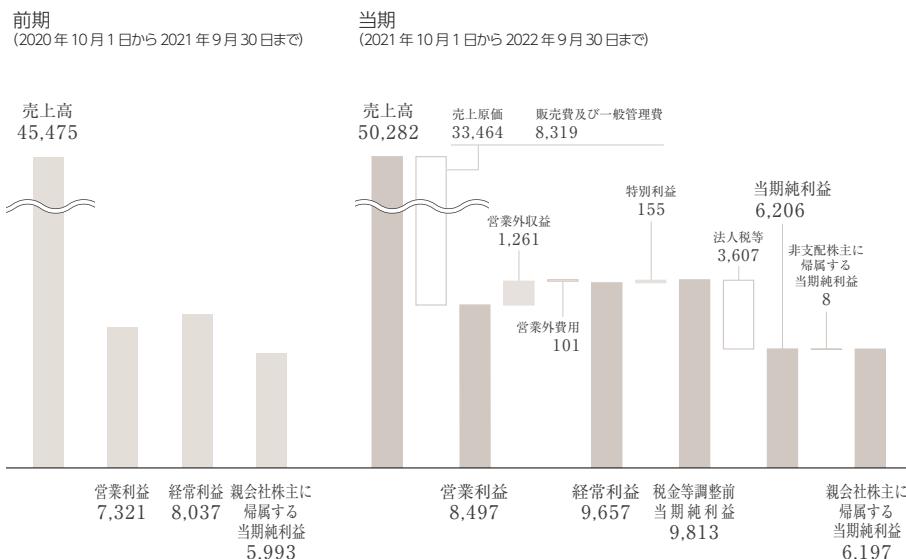
資産負債

point  
1

総資産は923億47百万円と、前期末に比べて139億33百万円増加しました。長期預金が短期への振替により40億29百万円減少した一方、現金及び預金が101億94百万円、棚卸資産が50億52百万円、建物及び構築物(純額)が14億12百万円増加したことなどによります。負債は286億91百万円と、前期末に比べて44億50百万円増加しました。長期借入金が93百万円、退職給付に係る負債が2億10百万円減少した一方、支払手形及び買掛金が4億89百万円、未払法人税等が3億26百万円、前受金及び契約負債が26億65百万円、繰延税金負債が6億11百万円増加したことなどによります。

損益の状況

(単位：百万円)



純資産

point  
2

純資産は636億56百万円と、前期末に比べて94億82百万円増加しました。自己株式の取得により10億93百万円減少した一方、為替が前期末より円安のため為替換算調整勘定が62億78百万円、親会社株主に帰属する当期純利益を61億97百万円計上したことなどにより利益剰余金が44億47百万円増加したことなどによります。

売上高・営業利益・  
経常利益・親会社株  
主に帰属する当期純利益

point  
3

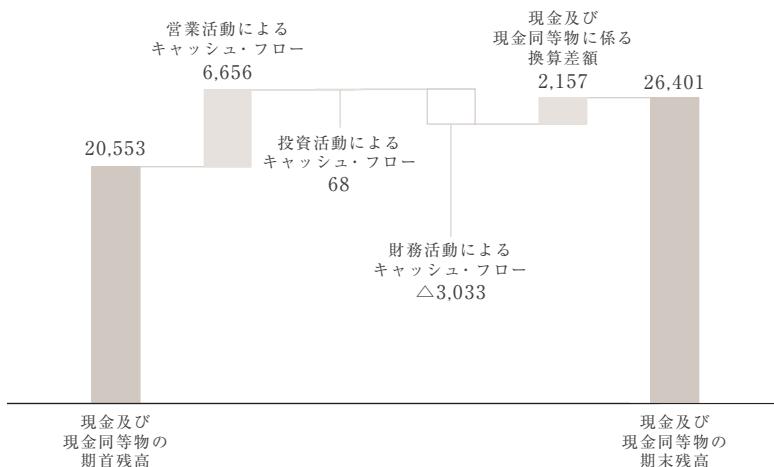
連結売上高502億82百万円(前期比10.6%増)、営業利益84億97百万円(前期比16.1%増)、経常利益96億57百万円(前期比20.2%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は、前期に発生した連結子会社の持分譲渡に伴う特別利益が剥落したものの、61億97百万円(前期比3.4%増)となりました。

## 連結財務データ

### キャッシュ・フローの状況

当期  
(2021年10月1日から2022年9月30日まで)

(単位：百万円)



point  
4

### 営業活動による キャッシュ・フロー

営業活動により得られた資金は66億56百万円となりました。税金等調整前当期純利益が98億13百万円、減価償却費及びその他の償却費が13億25百万円発生した一方、棚卸資産の増加額が37億37百万円、法人税等の支払額が26億87百万円発生したことなどによります。

point  
5

### 投資活動による キャッシュ・フロー

投資活動による資金は68百万円の資金増加となりました。定期預金の純減少額が19億6百万円、長期預金の払戻による収入が7億43百万円、投資有価証券の売却及び償還による収入が3億32百万円となった一方、長期預金の預入による支出が11億45百万円、有形固定資産の取得による支出が16億13百万円発生したことなどによります。

point  
6

### 財務活動による キャッシュ・フロー

財務活動により支出した資金は30億33百万円となりました。自己株式の取得による支出が10億94百万円、配当金の支払額が17億49百万円発生したことなどによります。

13

## 会社情報

(2022年9月30日現在)

### 会社概要

商号	OBARA GROUP 株式会社
設立	1958年12月
資本金	19億25百万円
従業員数	単体：19名(連結1,689名)
本社所在地	神奈川県大和市中央林間 3-2-10 046-271-2111(代表)
主な事業	持株会社として、グループ全体の経営戦略の策定・ 推進、グループ経営の監査、その他経営管理
ウェブサイト	<a href="http://www.obara-g.com/">http://www.obara-g.com/</a>

## 役員

取締役社長	小原 康嗣
取締役	小林 憲史
取締役	山下 光久
社外取締役	大西 倫雄*
社外取締役	牧野 宏司*
常勤監査役	高井 清
社外監査役	須山 正志*
社外監査役	高橋 昌子*

\* 証券取引所が定める独立役員として届出を行っております。

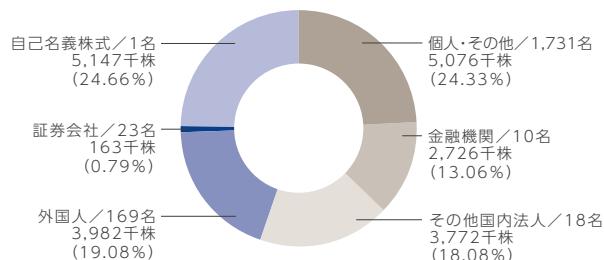
14

## 株式情報 (2022年9月30日現在)

### 株式状況

発行可能株式総数	38,000,000株
発行済株式総数	20,869,380株
単元株式数	100株
株主数	1,952名

### 株主分布状況



### 株主メモ

事業年度	毎年10月1日から翌年9月30日まで
定時株主総会	毎年12月
基準日	定時株主総会の議決権 毎年9月30日 期末配当 毎年9月30日 第2四半期末配当 毎年3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
株主名簿管理人	〒100-8233 東京都千代田区丸の内1-4-1 三井住友信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内1-4-1 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱所 (郵便物送付先 お問い合わせ先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉2-8-4 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL：0120-782-031(フリーダイヤル)
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社 全国各本支店

### 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
有限会社馬込興産	3,703	23.55
小原 康嗣	2,571	16.35
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	2,094	13.31
JP MORGAN CHASE BANK 385632	1,284	8.17
J.P. MORGAN BANK LUXEMBOURG S.A. 381572	532	3.38
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	412	2.62
小原 範子	304	1.93
JP MORGAN CHASE BANK 380072	295	1.88
吉田 史子	218	1.39
JP MORGAN CHASE BANK 385166	149	0.94

(注) 1. 上記のほか、自己株式5,147千株を保有しております。  
2. 持株比率は、自己株式5,147千株を控除して計算しております。  
3. 小原康嗣の持株数は自身の管理分株数1,084千株を加えて表示しております。

公告方法 当公司公告につきましては、下記ウェブサイトに掲載致します。  
<http://www.obara-g.com/>  
但し、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告を行うことが出来ない場合は、日本経済新聞に公告を掲載致します。

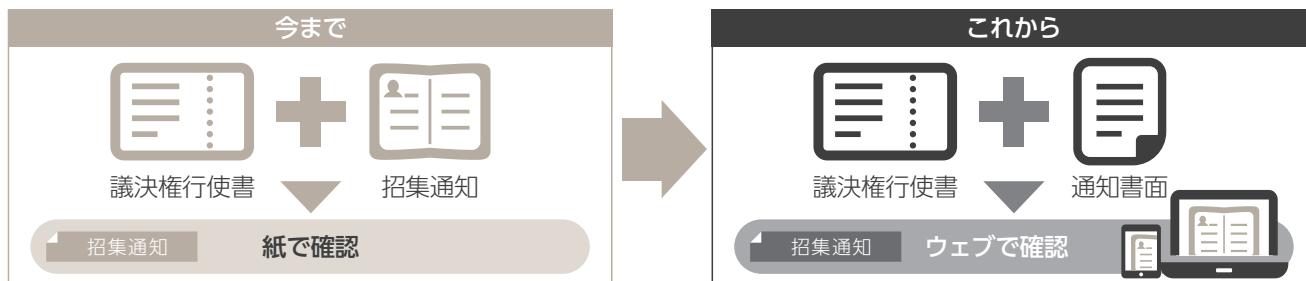
### 年間IRスケジュール



## 会社法改正により株主総会資料(招集通知)の 電子提供制度が始まります！

2023年3月以降の株主総会より、これまで郵送していた株主総会資料(招集通知)が原則ウェブ化されます。

株主の皆様は、会社から通知書面にてご案内するウェブサイトへアクセスすることで、株主総会資料をご確認いただくことができます。**当社では2023年12月下旬開催予定の定時株主総会から適用となります。**



17

### インターネットのご利用が困難な株主様へ

書面で受領するためのお手続き(書面交付請求)が可能です。

#### Q 書面交付請求とは？

インターネットを利用することが困難な株主様を保護するためのお手続きです。

お申し出いただいた株主様には株主総会資料を書面でお送りします。

**なお、書面交付請求を行わなくても、URL等を記載した通知書面はお送りします。**

#### Q 書面交付請求の 受付期限は？

**株主総会の基準日(当社では9月30日)までにお申し出が必要です。**

お手続きには2週間以上お時間がかかる場合がございますので、余裕をもってお手続きを行ってください。

#### Q お手続き方法は？

**証券会社**にお申し出の場合は、保有銘柄の口座を開設している証券会社へお問い合わせください。

**株主名簿管理人**にお申し出の場合は、書面での受領を希望される銘柄ごとに申出書面のご提出が必要です。

株主総会資料の電子提供に関するお問い合わせ先

三井住友信託銀行 証券代行部 電子提供制度専用ダイヤル  **0120-533-600**

受付時間 土・日・休日を除く平日9:00～17:00 [よくあるご質問▶ https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/](https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/)



18